

機関番号：72623

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19520123

研究課題名(和文) 国宝「初音の調度」の総合的研究 ―技法・意匠を中心に―

研究課題名(英文) Comprehensive study on the national treasure HATSUNE Makie lacquer furnishings; focusing on technique and design

研究代表者

小池 富雄 (KOIKE TOMIO)

公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・学芸員

研究者番号：40195631

研究成果の概要：4年間の調査研究において、「国宝 初音の調度」に関する本研究は、美術史的観点、技術的観点、歴史的観点など多方面からの総合的な面において、従来の研究を大きく発展させることができた。その成果は、徳川美術館はじめほかでの展示に反映し、専門学会にでも発表できた。とりわけ最終年度では、「国宝 初音の調度」75件を含み、関連の新発見・初公開資料を加えて展覧会を開催し、公開シンポジウムを開催した。一般市民、観覧者にも大きく情報の提供・開示ができて反響が大きかった。

研究成果の概要：The four-year study, "National Treasure HATSUNE Makie lacquer furnishings" This study on the perspective of art history, technical aspects, from various aspects such as comprehensive historical perspective, the conventional could significantly promote research. The results are also reflected in the exhibition at the Tokugawa Art Museum, was also presented at professional society. Especially in the last year 2010, "National Treasure Hatsune furniture" contains 75 to hold the exhibition in addition to the new discoveries related to the objects, held an open symposium, the general public, providing information to viewers greater - greater public reaction can be disclosed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：①蒔絵、②婚礼調度、③幸阿弥家、④近世大名、⑤漆工史、⑥千代姫、

⑦源氏物語

1. 研究開始当初の背景

国宝「初音の調度」は財団法人徳川黎明会が所有し、名古屋の徳川美術館が保管する江戸時代の大名婚礼調度における最高峰の作と言われている。徳川三代将軍家光の娘千代姫が数え歳三歳、寛永十六年（1639）に尾張徳川家に嫁入りしたときの婚礼調度でありわが国の国宝指定物件の中でも、近世の大名婚礼調度の代表作であり、また江戸時代の蒔絵として最もよく知られる作例の一つである。『幸阿弥家伝書』によれば同家の十代長重が製作にあたり、千代姫が誕生した寛永十四年（1637）父親である三代将軍家光から製作の注文を受けたとある。このうち四十七件の蒔絵調度の意匠が『源氏物語』初音の帖に因む意匠であるために、千代姫の婚礼調度のすべてが「初音の調度」と通称されて来た。初音蒔絵以外には十件が同じく『源氏物語』胡蝶の帖に基づく意匠である。「初音」「胡蝶」蒔絵の二種の意匠合計五十七件は既に昭和八年（1932）に重要美術品、その後、昭和二十八年（1953）重要文化財に指定されていた。その後の平成八年、国宝に指定されるにあたっては、これ以外の蒔絵香道具や染織品、刀剣などの現存する千代姫の婚礼調度全体に指定範囲を広げて、未指定品を追加して国宝に格上げの扱いとなった。その理由は未指定であった千代姫婚礼調度および付随資料の研究調査が進んだ結果、単に江戸時代の蒔絵の名品とするのみならず、婚礼調度として揃っている全体の価値が再評価され、重要文化財の中でもとりわけ優れた出来栄であり、わが国文化財の代表例の国宝に値すると再評価されたためでもあろう。千代姫の婚礼に際して、幕府のお抱え蒔絵師である幸阿弥十代長重の製作によるとの前記幸阿弥家の文献的裏付があり、製作年代、所用者、製作者なども明確な基準作である。またその後の伝来や経路も明白であり、保存状態も同時代の作例に比較して格段に優れている。

平成十三年度文化財修復補助事業として初音蒔絵貝桶一對と同蒔絵帯箱一合の修復が行われた。修復の経過や結果の報告書は既に刊行されているが、わずかに二点の修復に際しての分析に過ぎない。全体の60点の詳細な研究は不十分であり、顕微鏡レベルでの観察や分析からはさらに江戸時代の日本の蒔絵の頂点でもある幕府のお抱え蒔絵工房による江戸時代最高峰の技術を、今後さらに全作品にわたり具体的に解明することが可能である。2点の修復に際して、判明した技法や材質は

従来の知識や通説とは大きく異なり解明が進んだ。使用されている金の純度や合金材質が非破壊で分析調査され、多種多様な材料が図様や意匠の表現に巧みに取り込まれていた。また清掃や観察の結果、それらの材料の施工順序や形状などの明瞭な分析が可能となった。従来、国宝初音の調度がこのような観点から分析や修復をうけたのは初めてのことであった。

実際には日本の現代における最高水準の蒔絵技術を持つ漆工芸家とその工房スタッフを研究協力者に迎えて、詳細な観察と分析を全体に及ぼし、分析の結果は逐次公開することとした。分析結果は、「追試」として部分的な原寸部分模造を技術者が製作することにより、本研究の分析結果が妥当であるか、是非の材料が提出できる。科学的な分析と合わせて、細部の意匠や図像の検討も合わせ行う必要がある。一般的に古美術品の材料や技法分析は「非破壊分析」のテクノロジーが発達した近年めまぐるしく進んだ。しかし漆工品では必ずしも十分ではなく、修復に際しての部分的分析や検討が不十分で終わる場合も多い。さらにその分析データに対して多様な研究者が参加して、分析、討議することも希である。分析したデータを如何様に読むか、は研究者の立場すなわち技術者、美術史、製作者などにより差異が生じる。相互間の意見交換により、より真実に近づくと考えられる。欧米では絵画に限らず、漆工品でもX線写真や蛍光X線分析など科学的なアプローチが行われてきた。しかし今回の国宝「初音の調度」のような名品の基準作では作品が海外に無いこともあり実例に乏しい。「初音の調度」のような最高の作例、基準作を分析して世界に報告することが、日本美術全体の研究を推し進める手がかりとなろう。これらの分析から得られる学術的な成果は、17世紀における日本の蒔絵の最高技術の解明であった。

2. 研究の目的

我が国を代表する「国宝 初音の調度」を製作技法、意匠、製作背景などの各方面から解明研究することにより、総合的に深く新しい理解を進展し、もって日本の美術史、生活史、漆工史の基準を提示し、近世武家文化の頂点に位置する婚礼調度のもつ価値を解明する。意匠、文様を表現する蒔絵表現がどのように応用されているか、近世の蒔絵の「最高技術」といわれる詳細な裏付け、なぜ該当する意匠文様を該当する技法材料で実現したのか、微細な顕微鏡レベルにまで立ち入り解明

する。

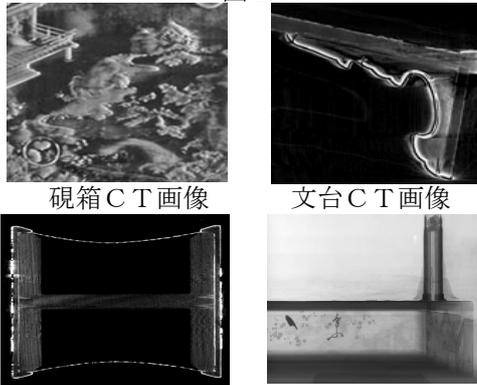
3. 研究の方法

原則として一年に2回程度連携研究者、研究協力者を徳川美術館に招集して、国宝「初音の調度」を実際に手にとって、熟覧調査、分析、写真撮影の機会を設けた。連携研究者以外の研究協力者として、主に漆工史、漆工技術者2つのグループからのアプローチにより両者の意見交換、討議により作品の実像を解明。研究者による分析、仮説に基づいて漆工技術者が、部分的な模造を製作してみることにより、製作技法の検証とした。山本泰一（徳川美術館副館長）、佐藤豊三（徳川美術館学芸参与）小松大秀（九州国立博物館学芸部長、漆工史学会理事）、永島明子（京都国立博物館研究員）、竹内奈美子（東京国立博物館研究員）、内田篤呉（MOA美術館学芸部長、漆工史学会理事）。上記の協力者により、「初音の調度」が製作された歴史的背景、伝来記録の洗い直し、意匠文様の配置の詳細な調査製作。類似する関連作品との比較検討、図像としての『源氏物語』初音の帖の絵画的展開の比較検討などを担当した。

4. 研究成果

延べ8回16日の研究会を徳川美術館にて開催し、外部からは研究協力者に迎えた日本を代表する漆工研究者および重要無形文化財保持者（人間国宝）の漆工芸家2名と工房スタッフの参加を得て、熟覧調査をした。意匠、技法などこれまでは未知であった部分が多く情報が得られた。九州国立博物館での展示・科学分析によりはじめてX線撮影、CT撮影、蛍光X線反射分析、高精彩デジタル画像撮影など（図1）非破壊の科学的分析技術を応用することにより、従来未知であった内部構造や用いられた材料の金属成分なども明らかになった。これらについて得られた研究成果については日本文化財科学会第26回大会および文化財保存修復学会第32回大会にて発表した。

図1



硯箱CT画像

文台CT画像

祝枕CT画像

見台CT画像

総合的に述べると、三代将軍の唯一の継承者にふさわしい、前例の無い豪華な蒔絵の仕様であると、判明した。（図2）さらに同時に平行した文献史研究により、「国宝初音の調度」は（図3）、尾張徳川家二代藩主光友と婚礼した三代将軍家光の長女千代姫のために製作された婚礼調度であり、光友が次期将軍に予定されたために、次期将軍夫人にふさわしい前例の無い豪華な仕様となった、とこのたびの研究で歴史的背景が解明された。

図2



安倍四郎五郎正之書状 毛利秀就宛
寛永十五年二月二十一日 山口県文書館所蔵

図3



国宝初音の調度／細部に施された地中海棚
黒棚全景 海産宝石珊瑚による梅花

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

1, 小池富雄、石山寺蒔絵源氏物語筆筒（根津美術館・重要美術品）について—源氏物語書物筆筒の系譜—、金鯢叢書第35輯、2009、67-88、（査読無し）

2, 小池富雄、婚礼調度類（徳川光友夫人）、国宝の美工芸5漆工48号、2010、30-31（査読無し）

3, 小池富雄、日本一豪華な嫁入り道具、クラブ東海会報誌510号、2011、2-3、（査読無し）

4, 小池富雄、報告「国宝初音の調度展」、日本文化財漆協会報「漆文化」120号、2011、8-10、（査読無し）

〔学会発表〕（計2件）

1, 小池富雄、他. 国宝 初音調度の科学調査、日本文化財科学会第26回大会、2009/July/11、名古屋

2, 小池富雄、他. 国宝初音の調度のX線
C T調査、文化財保存修復学会第32回、
2010/June/13、岐阜

[図書] (計2件)

1, 小池富雄、江戸文化の見方、角川選書
460、2011、244-279

2, 岩崎朱実、珊瑚—宝石珊瑚をめぐる文
化と歴史、東海大学出版会、2011、26-29

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小池 富雄 (KOIKE TOMIO)

公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・

学芸員

研究者番号：40195631

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

徳川 義崇 (TOKUGAWA YOSHITAKA)

公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・

会長 館長

研究者番号：50390745

四辻 秀紀 (YOTUTUJI HIDEKI)

公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・

学芸員

研究者番号：30201073

吉川 美穂 (YOSHIKAWA MIHO)

公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・

学芸員

研究者番号：70260106

龍澤 彩 (RYUSAWA AYA)

公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・

学芸員

研究者番号：00342676